P1

歴史散歩 ― 第四回

江戸末期の徳川と上野戦争を知る「西郷どん」で話題の地を散歩

校友会主催の第四回「歴史散歩」が11月17日（土）に秋晴れの好天気に恵まれ開催された。上野駅前にある東京文化会館前に校友、学生が集合。秋山修先生、関一成先生のA、Bの2班に分かれて出発。文化会館すぐ横の野球用語を日本語に訳した正岡子規の記念球場と記念碑を経て、公園中心にある大噴水を通り東京国立博物館方面へ進む。向かって左側に旧因州池田屋敷表門が10万石以上の大名が許されたという堂々たる大きさを見せている。博物館の南東にある両大師堂は厄よけのお札を求める人も多く、広く信仰されている。現在の国立博物館にはかつて寛永寺の本坊があったが上野戦争で焼失。門だけが残り、両大師堂前の現在の地に移された。扉のあちこちに弾痕が見て取れる。

更に博物館裏手を進むと寛永寺霊園が広がり四代将軍家綱の厳有院霊廟勅額門、十代家治、十一代家斉の墓もある。常憲院霊廟勅額門のある霊廟には、五代綱吉、八代吉宗、十三代家定の墓があり、さらに進むと寛永寺に着く。

寛永寺境内には江戸大火の被災者を救済し、経堂を設置するなどした了翁禅師座像や琳派陶芸家として著名な尾形乾山の墓、雅号を雪斎という大名が写生に使用した虫たちを供養した虫塚がある。ほかにも、彰義隊の結成から上野戦争に至るまでの顛末を記した石碑がそびえている。根本中堂は明治に復興の許可が下り、川越にあった喜多院を現在の地に移したものだ。

寛永寺を出て旧京成線の駅跡を過ぎ公園中心部に戻る。この地に公園を造ることを提言したボードワン博士像、第18代アメリカ合衆国大統領グラント氏が夫妻が植樹した木と記念の碑がある。植樹碑のすぐ横には小松宮（伏見宮嘉彰親王）像がある。小松宮は博愛社の総長に就任。同社は後の日本赤十字社に発展した。桜並木道を右に入ると徳川家康を祀った上野東照宮の鳥居がある。水社門をすぎると金箔がふんだんに用いられきらびやかな本殿が現れる。　外に出るとすぐにお化け灯籠、南側に大仏パゴダがある。この場所から時の鐘も見ることができる。南下すると医道の神を祀る五条天神社。同境内に花園神社がある。一洞を造りキツネを祀った狭い洞の中に恐々入る観光客もいる。不忍池横を下り京都の清水寺に見立てた清水観音堂で広重の江戸百景の松を感じる。

上野山の南端に歴史散歩の最終地点西郷隆盛の銅像のすぐ近く、彰義隊の墓がある。放置されていた戦死者の遺体を見かねた三ノ輪円通寺の住職により荼毘に付され、遺骨は円通寺に埋葬された。

江戸時代末期の混沌とした時代を肌で感じる、3時間半ほどの散歩であった。

散歩後の懇親会では、案内の先生との歴史談義や、校友と在校生との交流で盛り上がった。

❶集合場所の東京文化会館前で参加者の点呼とA、B班を分けて出発

P2

文化会館～寛永寺

❸東京国立博物館の入口を左の方に進んだ所に旧因州池田屋敷表門がある。旧池田家の上屋敷表門、10万石以上が許された両出所を備えている。東宮御所から移築された

大噴水前についた所で2班に分かれ出発

❶文化会館すぐ横にあり、正岡子規は野球が紹介されて間もない頃から楽しんだという。正岡子規記念球場フェンスの前の記念碑

中正面の寛永寺阿弥陀堂

入口を入ると閑静な佇まいの中、正面に寛永寺阿弥陀堂、途中から右へ行くと寛永寺輪王殿に出る

❹両大師像が子院を順に回っていたのでその所在を示す金札が入口に立っている

A班を引率した江戸文化歴史検定1級の秋山修先生

輪王寺の鬼門除け札、角大師のお札

輪王殿前の広々としたの正門は寛永寺旧本坊門になる

正面に本殿にお参り後、戻りながら左へ行くと輪王殿

途中、幸田露伴宅にあった小さな門をくぐると輪王殿前の広々とした場所に出る

P3

❻寛永寺の広大な徳川家の墓所。三代将軍家光の死去に際し、殉死をした者の墓と碑がある。しかしこの後、殉死は認められず、行われなくなった

上野戦争の激しさを今に伝える弾痕は扉のあちこちに見られる

❺寛永寺の本坊は上野戦争で焼失したが、門だけは焼け残り、現在の場所に移され保存されている

B班を引率した江戸文化歴史検定1級の関一成先生

参加した在学生も資料片手に真剣に先生の話に聞き入っていた

入口にある先代林家三平の妻海老名香葉子さんが代表となり建立した東京大空襲の慰霊碑

❼四代将軍家綱の霊廟勅額門。家綱、十代家治、十一代家斉の墓があるが関係者以外立入禁止

徳川慶喜は鳥羽伏見の戦いに破れ、江戸に戻り、ここ大慈院で謹慎に入った。羽織袴を着用し、終日正座を崩さなかったという。3ヵ月ほど過ごした部屋が「葵の間と」として保存されている

日本大学商学部校友会のプレートを持って先導する在学生

❽五代将軍綱吉の霊廟勅額門。造りは厳有院と同じ、綱吉、八代吉宗、十三代家定の墓があるが関係者以外立入禁止

P4

寛永寺境内　根本中堂

❾根本中堂は上野戦争で焼失し、寛永寺領も明治政府に没収されたが、明治4年復興の許可が下り明治10年位川越喜多院の本地堂をこの地に移築して寛永寺の本堂とした。その根本中堂前で参加在学生、校友の全員記念写真

P5

寛永寺境内

尾形乾山の6歳年上の兄が光琳である。江戸時代の陶工、絵師。一般に窯名として用いた「乾山」の名で知られるようになり、入谷に窯を開き名品を作った。墓の場所が不明になったが、酒井抱一が探し当て、後に顕彰碑は復元されこの地におかれた。

中堂正面に掲げられている「瑠璃殿」（中堂の別名）の勅額が掲げられている

彰義隊の命名、結成から上野戦争までを記した上野戦争碑記。よく見ると彰義隊と名づけようと漢文記されている

了翁禅師は江戸時代末期の社会事業に貢献した人物。大江戸の耐火の被災者を救援し、寛永寺に経堂を設置した

根本中堂のかつての鬼瓦（一番上）現在は復刻された鬼瓦（右下）が載せられている。その大きさは写真でわかるように身長を超えるほどである（左下）

寛永寺を出て現在の上野公園に戻り散歩を続ける

伊勢長島藩領主増山正賢は雅号を雪斎といい、写生の虫の死骸を小箱にとり、埋葬、供養した。その遺志で建てられた虫塚

P6

上野公園内史跡

⓬第18代大統領グラント夫妻が訪日し、ヒノキとタイサンボクを植樹したことを記念して造られた碑。植樹された左はヒノキ

⓫都会に公園を造ることを提唱しこの地が適していると政府に提言したボードワン博士像

❿京成電鉄旧博物館動物園駅。現在は使われずエメラルドグリーンの色が鮮やかである

⓭小松宮像、小松宮は鳥羽伏見の戦い、会津戦争、戊辰戦争に従軍。西南戦争では負傷兵救済を目的に設立された博愛社の総長。博愛社は日本赤十字社に発展し

安藤広重の絵が当時の寛永寺を描いたものがプレートになっている。寛永寺の広さがよく分かる

全48基ある銅製の灯籠は諸大名から奉納

⓮大石鳥居を抜け、水舎門につながる。右側に五重塔が見られる

大正時代の青銅大仏の写真

⓰大仏山パゴダ　青銅大仏は1600年台中期に木津浄雲師が造った。度重なる火災や大震災で倒壊。現在は顔の部分のみが安置されている

⓯お化け灯籠　高さ7m 笠石の周囲3.2mの巨大灯籠。日本3大灯籠の一つ

徳川家康を祀った社。三代将軍家光が造営した当時の建築が現存。青銅灯籠、唐門、透塀、拝殿、幣殿、本殿など全てが国指定重要文化財。中央の唐門の左右の灯籠は紀伊、水戸、尾張の徳川御三家からの2基づつ寄進されたもの

P7

上野公園内史跡

⓱初代の鐘は、寛文六年（1666年）の鋳造。その後、天明七年（1787年）に、谷中感応寺（現、天王寺）で鋳直されたものが、現存の鐘である。現在もなお、鐘楼を守る人によって、朝夕六時と正午の三回、昔ながらの音色を響かせている

弥左衛門狐に一洞に祀られ、今でも商業の神様として信仰されている

⓳五条天神社内にある境内社弥左衛門狐は洞穴に造られている

⓲五条天神社入り鳥居のある階段を下る

㉒愛犬ツンを伴ってうさぎ狩りに行く西郷の姿を高村光雲、犬は後藤貞行が作成し

清水の舞台からは江戸時代の情緒が感じられる風景が広がる

おみくじを結ぶ在学生

⓴京都の清水寺を模して造営された清水観音堂。本尊の千手観音像は京都清水寺から三代将軍家光に献上されたもの。

月の松は安藤広重の江戸百景にも描かれた。しかし松の木は復元された松

今回の「歴史散歩」締めの挨拶をする西川豊和校友会副会長

㉑上野戦争で戦死した彰義隊の隊士の墓